

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームまごころ
(ユニット名)	望(のぞみ)
所在地 (県・市町村名)	三重県松阪市
記入者名 (管理者)	宮田 尚美
記入日	平成20年 10月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、まごころ認知症ケア5つの基本理念を柱に「家であること」そして「大家族」を目的とした独自の理念に基づいてご支援している。また今年新たに、「そして地域の中で支え合いながら普通の暮らしをご支援します」という方針を付け加えた。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時、各ユニット出勤者全員で、運営方針・理念等を復唱し職員の意識の統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、毎月発行の新聞を通して、節目に必ず方針・理念を繰り返し伝えている。方針と理念は玄関の見やすいところへ掲示し、ご近所の方や面会の方がいつでも見られるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時、近隣の方への挨拶は勿論、溝掃除や組ミーティングの時は積極的に話をしている。隣の方は、雨が降ってくると洗濯物まで気にして下さり電話で教えて頂いたり、介護のことで相談があると気軽に聞きにみえる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事等は、積極的に参加し、地元の方との交流に取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習の受け入れや、地域包括支援センターの依頼で地域の介護予防サポート教室で講師を行い施設見学を受け入れたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、意識の統一と改善に向けた話し合いの結果を実践し、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、外部評価の結果は、職員全員で受け止め、改善方法を話し合い、実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場を生かし、自分達が実践しているサービス内容について報告し、様々な立場から改善点やご意見を頂き、サービス向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所介護高齢課に電話で尋ねたり、相談したり実際に出向き自分達が知らないことを納得いくまで教えていただくこともある。また、身寄りのない方や生活保護受給者・松阪市権利擁護事業利用等で保護課や松阪社会福祉協議会職員と、入居者のことで一緒に関わりをもって下さっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、何度か研修会に参加し権利擁護制度の重要性は理解している。職員も研修会に参加し、カンファレンス等で伝達講習を行っている。現在地域福祉権利擁護事業を利用されている入居者が数名見え、社会福祉協議会の専門員や生活支援員と連携し支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について内部研修会を行い、職員の意識の向上に努めている。職員がストレスを溜めないように、管理者は、職員への声掛けに常に気を配っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実調の時から、ご本人と家族と関わりを持ち、契約時は、入所後の本人や家族様の不安や心配について相談にのり、本人の入所時の不安や混乱についてホームの対応や家族様の協力の必要性についての話し合いをしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何事においても、入居者本位を心掛け、職員との信頼関係において、何でも言える環境作りに努めている。権利擁護事業利用者は月に1回、生活支援員が本人を訪ね、意見や思いを聞いている。職員が個々に聞いた意見や不満は職員自身が受け止め、支援している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料請求時、担当職員が健康状態や日々の生活の様子などを書いた近況報告書を郵送し、お小遣いは、パソコン管理で、出納帳に1ヶ月間に使用した金銭の領収書を添付し毎月郵送している。日常の様子や外出時の様子のわかる写真入りの新聞も郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、職員が常に声掛けし、現状について相談を受けたり、医療面でも何でも話せる関係作りを行っている。契約時苦情受付窓口も説明し、ご意見箱も玄関に設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回法人本部長による面談を行っている。管理者も職員の提案や意見はその都度聞いて改善できることは行動に移している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、状況に応じた対応ができるため、通常のシフトに入れていない。その為、夜間対応や入居者の状態の変化、急変時に応じた柔軟な体制がとれている。また、職員の勤務時間は、入居者のペースに合わせた時間になっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が認知症高齢者であることから、管理者を含む職員については、平成15年5月の開設以来、出来る限り長く勤務できるように、異動を控えている。	○ 事業所として開設後5年を経過したことから、認知症高齢者の介護に対する専門的な知識を持った職員を育成しながら、サービスの向上に取り組むため、多少の職員の異動についても検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者和び職員に必要と判断する認知症のケアに関する研修会・講習会を中心に出来る限り参加できるように支援している。平成19年度は延べ25回の研修会・講習会に参加し、職員一人平均1回を受講している。	○	今後増大すると予想されている認知症高齢者に対する介護の質を向上していくため、より専門的な知識を持った職員の育成に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会主催の講演会や意見交換会、施設見学や、松阪市グループホーム協議会での勉強会を通じ、他の事業所の運営、ケア等の良い点を取り入れ、サービスの向上に取り組むようにしている。	○	認知症共同生活介護事業所には、利用者が認知症高齢者であるために介護やケアに困難を伴うこともあるから、松阪市、地域包括支援センター及び、他の事業所等と連携しながら、よりサービスの向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	サービスの向上のためには、対人サービスを提供する職員の心のケアが重要であることを認識し、職員のストレスの解消に向け、その悩みを聞く担当職員を定める等、その解消に取り組んでいる。	○	今後、さらに職員の心のケアに取り組む必要があると認識しており、職員のストレスを解消するため、その意見や声を反映しながら、業務を行う環境の改善に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当初は、日々の介護サービスの提供のため、サービスの向上のための人材の育成を第一義としてきたが、現在は職員が向上心を持って働き続けることができるように、就業規則の改定の検討等、職場環境の改善に取り組み始めたところである。	○	今後、法人や施設、事業所を運営していく中心となる管理・監督者の育成に取り組む必要があると認識しており、こうした職員育成のノウハウを確立し、また、職場環境の改善に取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人や家族とは、初対面の時から時間をしっかりと話しを聴くようにしている。本人とは、同じ目線で話し、不安なことはないか表情や口調等で感じ取り、しっかり受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いをゆっくり聴き、思いを共有するようにしている。家族の今までの思いを2～3時間聞くこともあり、そのことによって家族の内面にある感情も受け止め、答えることによって信頼関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何より本人と家族の気持ちを大切に、どういう暮らしを求めているのか、話の中や表情から見極めている。必要に応じて担当していたケアマネジャーに相談し、支援内容を考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学に来て頂いたり、実調時、職員が関わりを持ったりして、雰囲気馴染めるきっかけ作りを行っている。また、家族と連携を持ち、慣れるまで何度も来て頂いたり、毎日決まった時間に電話してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、信頼関係を築き怒哀は受け止め、喜楽は共に楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月送る近況報告で、入居者の様子を伝え、面会時にもコミュニケーションをとり家族様の思いを受け止め、共有できるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族様の関係がより良いものになるよう、行事や御誕生会にも参加して頂き、楽しい思い出作りができるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、病院、買い物など以前の生活を維持できるよう支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格等を把握し、職員が間に入る事でよい関係が持てるように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ法人内に変わっていかれた方には、法人合同行事で合うこともあり、関係が断ち切られるわけではない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	9人の思いや意向の把握に努め、第一に考えている。いかに希望に添えるかカンファレンス時に話し合い、メモにして目の付く所に貼ることで、常に意識するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族様にセンター方式を記入して頂くことで、これまでの暮らしの把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握した上で、日々の変化を介護日誌24時間シートに記録し申し送るようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回カンファレンス時、本人・家族の意向を第一に考え、話し合い、家族様に相談をかけた後、意見や要望を聞いている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスで3ヶ月に1度見直しを行っているが、見直しが必要な場合は、1ヶ月でも現状に即した介護計画を立てている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を介護計画の見直しに生かす為、数字による正確な記録の他、何気ない1日の出来事も、その方の大切な1日の記録として、1日一項目は記録している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看取りに際し、必要な医療機器等すばやく対応できた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	交流会で歌や踊りのボランティアの方々に来てもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前のケアマネジャーと入居者のことで、相談ごとがある度連絡をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括の職員が参加することで、意見や要望を聞くことができ、協力体制が整ってきている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で入所前のかかりつけ医を希望される方は、継続し、ホームの協力医を希望される方は、かかりつけ医として相談や往診にも対応してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や研修を利用しながら常に態度や言葉づかい、声のトーンに注意している。また、個人情報を目のつく位置に置かない等の配慮もなされている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り、本人の意思を尊重し、本人に判断を仰ぐ形での声掛けや対応をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしつつ、体操や歌を日課とするなど、新しい楽しみごとへの提案もしている。(決して無理じいはしない)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	特定の理容師さんに来て頂いているが、本人の希望があれば、他の美容院へ職員同行で出掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の心身の状態を考慮し、簡単な料理、皮むき、片付け等、出来ることをして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ希望を聞いたり、本人と共に買い物に行くこともある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で、9人の排泄間隔を把握しその方にあった時間、方法でトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から夕まで、自由に入って頂ける。体調や希望に合わせて、入浴して頂き、間隔のあいた方は、把握し、さりげなく声掛けし誘っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方に合った室温等考慮し、安心して休んで頂けるようにしている。又、眠れない時はリビングで話を聞くなど対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合った役割(皿洗い、洗濯ものたたみ)をお願いしたり、外食や買い物に出掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で管理しているが、外出時には、本人所持にて使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩やスーパーへの買い物には気軽に掛けている。その他の外出は計画的に職員の多い日をつくり掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1度の交流会で、家族にも声を掛け外出、小旅行で気分転換を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から来た手紙は、本人様に渡し、内容をわかるように伝えるようにしている。電話に関しては、現在、入居者の希望が無い為、本人がかけることは無い。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は、玄関を開放し、いつでも気軽に訪問して頂ける。常に室内を明るくし、居心地良く過ごせるような雰囲気作りに努めている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会で、委員が月に1度話合っている。又、ユニット主任が研修を受けそれを基にユニットごとに勉強会を行った。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には実地している。しかし、鍵を掛けざるを得ない状況になった場合、一時的に施錠で対応する場合もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間の見守り、夜間の巡視は徹底して行い、特に夜間は巡視時間外でも、何度も巡視を行う事で、安全に配慮している。又、プライバシー保護のため居室の小窓にはカーテンが付けてある。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方にとって危険であるものは目の付かない所にしまったり、鍵のある戸棚にしまう事で危険を防いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット、投薬チェック表、マニュアル作成等で事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応等は、勉強会や研修で知識としては理解しているが、実際に対応できるかわからない。夜間緊急時はマニュアル作成してある。	○	定期的に救急手当や蘇生術の研修を行って行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じ自治会との協力体制はできている。年1回の避難訓練に加え夜間の避難訓練も行う予定である。	○	今年から年2回の防災訓練を予定している。初めて夜勤者のみで夜間防災訓練を10月14日に行う予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに対し、家族と職員や看護師、必要な場合はかかりつけ医が説明し、コールマットやベットから畳への変更を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、水分補給、食事量、排泄、表情など少しの変化も見逃さないようにしている。異変を認めた場合、看護師に相談し必要な場合は病院受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理し、薬の内容については、個人ファイルにて情報の共有がなされている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を入れ、身体を動かす機会を増やしたり、水分補給や食事を工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後、夕食後は口腔ケアの時間をもうけ、一人ひとりの口腔状態や、能力に応じた支援を行っている。しかし、朝食後は、職員の数人で行っていない。	○	毎食後の口腔ケアの重要性を見直し、早番が来てから行う等改善に向けて取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェックシートにて把握し個別的にポカリゼリーなどで摂りやすいように対応している。栄養に関しては、職員が立てた献立表を法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、実行している。手すり等消毒液での掃除を毎日行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理を徹底し、一日おきの新鮮な食材の購入や夏期(6月～10月)の生魚や貝の献立を中止することで食中毒の予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植え、ベンチを置くことで皆が集える雰囲気にしてある。又、雨の日など、入居者が濡れずに安心して外出できるようにスロープにして玄関先まで車が入れるようにした。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、季節を感じられる貼り絵を飾ったり、中庭に季節の花や野菜を植え、収穫の喜びを分かち合っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで談笑したり、畳コーナーで休まれたり、隣のユニットの入居者と中庭でおしゃべりしたりと自由に過ごせるよう工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向により、仏壇、、タンス、テレビを置かれたり、畳の生活になじまれた(使い慣れた)方には、部屋を畳にするなど工夫している。又、写真や作品など本人と共に思い思いに居心地の良い空間を作るように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は雨天時以外毎日行われている。温度調節も外気と大きな差がないよう配慮し、希望のある入居者の居室のみ本人の体感温度に合わせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かした手摺りの高さに配慮している。又、リビングの席の位置も一人ひとりの身体機能を考慮している。	○	重度化の進む中、特に浴室に関しては手摺り程度では困難な入居者が増えてきている。リフト等検討中である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりわかる事、わからない事を把握しわかる事を活かし、わからないことはフォローすることで、少しでも自立して暮らせるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にプランターを置き季節の野菜を作っている。常に視野に入る事で大きくなったり、収穫するのを楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員が日々、一人ひとりの思いや希望を大切に思い、優しい気持ちで温かい大家族を作っていこうと頑張っている。何か問題が起きても投げ出さず、職員がその人の身になって最善と思われる方法を常に話し合える雰囲気があり、皆が入居者一人ひとりを家族のように大切に思っている。